

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300446		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	ハーモニー湖南		
所在地	福島県郡山市湖南町三代字寺ノ前290		
自己評価作成日	平成27年8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小学校を改築した施設のため、地域の方もなじみがある。スペースも広く、利用者は広々とした空間で圧迫感なく生活ができ、行事やイベントなど人が集まりやすい。湖南町のお客様や職員が多いため顔なじみの関係がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域自治会に加入し、地域行事への参加、ボランティアの受け入れ、日常的に地域との交流を持ちながら、地域に根ざした事業所運営に取り組んでいる。
2. 年間研修計画に基づき、各種研修会や勉強会を開催し、職員の資質の向上とサービスの向上に努めている。
3. 管理者と職員は、家族アンケートを実施し意向や希望を把握し、利用者の意向を尊重しながら利用・家族に寄り添った支援に取り組んでいる。
4. 利用者・家族・職員から意見を出せるよう「ありがとうBOX」を設置し、職員のスキルアップと職員同士が協力し合う職場風土作りを目指す取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所に掲示し、毎日の朝礼時に全員で唱和する機会をもち、理念の共有をしている。また、それに基づいた行動基準も唱和し、一日の目標を掲げ取り組んでいる。	事業所理念は策定されていないが、法人理念を事業所内に掲示し、法人行動基準と共に唱和し、行動基準と事業所の3大方針に沿った、一日の目標を全職員で掲げながら共有し、ケアに反映するよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義や役割を、全職員で確認話し合い事業所理念を作成して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、敬老会や盆踊りなど地域の行事にも参加している。また、地域の文化祭にも作品を出展したり、見学に行ったりしている。	地域自治会に加入し、地域一斉清掃や盆踊り大会への参加、文化祭作品出品を始め地域行事に参加している。また、事業所では夏祭りの開催や各種ボランティア、小学生の職場見学等を受け入れ、散歩等を通して日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議を活用し、ご家族や地域の関係者への支援について報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	区長会長、区長、地域包括支援センターの職員と、事業所での問題点等に関して解決に向けてのアドバイスをいただいたり、広報を通して施設の活動を報告し、会議メンバーからの助言を頂いている。また、施設利用者の利用状況や行事予定なども報告している。	運営推進会議は定期的に開催され、会議では事業所の運営状況や事故・行事等報告を行い、防災訓練、サービス評価等も議題として取り上げ、委員から意見やアドバイスを頂きながら運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政センター、介護保険課、長寿福祉課の担当者へ随時困りごとや相談に乗って頂き、連携を図っている。	市の担当者とは、事業所の状況報告やかかえている課題等につて相談するなど、協力関係を築きながら、直面している課題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての勉強会や施設内での話し合いを持ち、身体拘束廃止委員会を設置している。日常の業務の中でも職員が身体拘束をしていないか話し合いをしている。	身体拘束をしないケアを基本としており、身体拘束廃止委員会が中心となり身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、研修会や学習会を開催し、身体拘束の内容やその弊害について共通認識を深め、職員間で確認しながら支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部への研修や、内部での研修に職員は参加し、高齢者虐待防止に日常から気配りをしている。虐待への取組みをミーティングや朝の申し送り時などで話し合いを持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や法人のマニュアルで学んでいる。必要があればご家族や地域の機関、地域の方々との話し合いを持つ支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用される本人、ご家族の方々には十分な説明を行い、不明な点が無いようにしている。また、パンフレットや説明書などを使い、双方が納得してからの契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画作成担当者が配置されており、ご家族や本人の意見をきいている。また、アンケートや家族会を実施し、運営に反映させている。	「ありがとうBOX」の設置や家族会開催、面会時に家族等の意見や要望を聞くよう努め、家族アンケートを実施し、出された意見等を運営に反映させている。また、利用者には、担当職員を決め日常生活の中かで意向や希望を把握し、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段の業務中から、会議、ミーティング、アンケートなどを行い、職員の意見に耳を傾け、職員の気づきや提案をできるだけサービスの改善につなげられるように努めている。年に数回、本部との面談の機会があり職員から直接意見を上げることができる。	管理者は日頃から、職員の意見や要望を言い易い職場づくりに努め、職員会議やミーティング等で意見を聞き、アンケートや面談で職員の考えや要望・提言等を把握しながら運営に反映させている。また、法人の職員面談も実施されており、直接意見を吸い上げる体制も整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個別のスキル能力を評価し、昇給につなげている。資格の取得に向けた支援や、法人内イベント等を通し、やりがいを持って働けるよう努めている。現場の状況に合わせた就業時間を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の教育部門にて、内部研修などで指導するものを確認し、参加をうながしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員に研修を通して様々な事業所の職員等と交流する機会を作り、事業所のサービスの向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントのなかで、ご本人が必要としているサービスや、今後の生活への要望を聞き取り、ケアプランを組み立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意見や要望を聴き、家族の立場に立ち要望を実施できるよう検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が最も必要としている支援を見極め、ご家族も納得のいく対応ができるよう検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみ、お盆拭き、掃き掃除などの家事を中心に、ご本人ができる事をやっていただいている。役割を持って生活していくことで、「できる」という気持ちを持ってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などには家族の方も参加していただき、職員より本人の状況を伝えている。また、お手紙や写真を送り、普段の様子や健康状態を連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が来ていただける環境を提供し、家族と本人がより良い関係を維持できるよう支援している。	近隣の友人・知人の訪問があり、気軽に来て頂けるような環境づくりに努め、友人への電話の取りつぎや行きつけの店での買い物支援を行っている。また、馴染みの訪問理美容を通して関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通し、利用者同士の関わりを持つことで、お互いを意識し孤立しないよう支援している。職員も積極的に利用者に関わりを持っている。それぞれの関係を考慮しながら席の配置をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人や家族の関係性を大事にしながら、経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者と担当職員を中心に日頃の様子から本人の思いや意向の聞き取りをしている。	日頃の生活の中で利用者に寄り添い、言動や表情、行動に留意し、家族からの情報を得ながら思いや意向の把握に努め、それらをサービスに反映できるよう全職員で本人本位に検討しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に本人、家族、他機関から情報を収集し、生活歴や趣味、生活パターンなど、今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設での生活が、現在の生活と同じような流れになるように利用時に情報を確認し、対応している。モニタリング時などに家と施設での様子を話し合い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング後、状態の変化があった場合は、その都度居室担当者と家族、計画作成担当者と話し、計画の検討をしている。	利用者担当制をとり、利用者の意向を日常的に把握し、課題とケアのあり方について全職員で話し合い、家族の意向を踏まえながら利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、利用者の心身状態の変化があった場合は、その状態に即した計画の変更をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日1日、日常生活記録へ記録をし、申し送りやミーティング、担当者会議にて実践や計画の見直し・検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用している本人や家族の状況など、それぞれのニーズに対していかなるときも対応できるような柔軟な姿勢をもち取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内より配られる資料を基に、地域への参加を日ごろより心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師は、本人はもとより、家族の希望も聞き取っている。また、通院時は日々の状況を書面にて医師に伝えている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の医療を受けることができるが、ほとんどの利用者が事業所の協力医を受診している。通院付き添いは家族や職員が状況に応じ実施し、その結果は電話、面会時に報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と協力し日常の体調の変化を吐くし、何かあった時にはかかりつけの医師に相談、家族への報告をし、適切な医療をうけられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し、医療機関に持ち寄り、また、退院時には家族との話し合いを計画作成担当者で行い、併設事業所の看護師の助言ももらいながら本人の情報を把握し、家族との相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応など、ご家族と話し合い確認するようにしている。また、対応できること、できない事があり、その都度説明し、ご家族に理解していただき重度化を迎えた場合の相談支援を行っている。	重度化や終末期の指針を作成し、入居時や状況変化時に家族、利用者とは話し合うとともに、職員研修を行い、関係者とともに家族や利用者の意向を尊重し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や発生時の備えには職員と併設事業所の看護師との連携をとり、勉強会をおこなったり、緊急時の研修し、訓練している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間時に問わず利用者が避難できるよう、避難訓練を行い、職員が対応できるよう確認している。	通報訓練やAED操作や消火器使用法など毎月防災研修を行い、災害時の備蓄を常備したり、防火点検を毎日実施している。消防署が実施する消防大会に職員を派遣し、技能向上に努め、消防署の指導を受け、火災を想定した避難訓練を2回実施している。	火災、地震、風水害、雪害など各種の災害を想定した昼夜を問わない避難方法を習熟できるよう、できるだけ多くの訓練を実施して欲しい。
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内のマナー研修や接遇委員会から、毎月スローガンを掲示し、言葉かけやチームワークの向上を心掛けている。	利用者の人格を尊重し、誇りを損ねない、言葉かけや対応を行うため、法人の職員行動基準やマニュアルを周知し、接遇委員会活動として目標を掲げ接遇の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日常からコミュニケーションを通し、本人の希望や考え、思いを把握するよう努めている。また、衣服の選択、おしゃれ、外出レク等を通し、できるだけ自己決定ができるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋にテレビを設置したり、昔から使用していたタンスや写真等を置き、その人らしい生活ができるよう努めている。また、食事も設定時間はあがるが、本人の希望にできる限り添えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用し、定期的にかットや整髪ができる機会をもうけている。女性のお客様に関してはお化粧やネイル等を職員がお手伝いし、楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	アセスメントの際、好きな物、嫌いな物を聞き、参考にしたり、お菓子などを一緒に作ったりする事で、食事の楽しさ、作ることの楽しさを感じることから、生きがいを見つけていけるよう支援している。	アセスメントや日頃の会話から、利用者の好みを把握し、献立に反映させるとともに、利用者のできる食事の下準備や下膳、テーブル拭き、清掃などを一緒に行ったり、季節の行事食、誕生会時に希望の夕食を行うなどの支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人に合わせた食事形態の把握、摂取量の把握を行っている。一日の水分摂取量を記録し、少ない場合は次の日に申し送り、職員全体で十分な水分摂取が行えるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎夜食後の口腔ケアを本人の能力を見ながら声掛けしたり、義歯を外していただき介助をおこなったり等口腔内の清潔保持につとめている。また、		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、本人の状態に合わせ、排泄委員会が中心になり、一人一人の排泄支援方法を検討している。朝には一杯の水を飲んでもらい、便秘解消や整腸に生かしている。	排泄委員会を中心に利用者の排泄チェックを行い、状況に応じ、プライバシーに配慮しながら、自立できるよう取り組んでおり、排泄機能が向上した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、医師の指示のもと、下剤でのコントロールを行っている。水分量を増やす為に、本人の嗜好にあった水分の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の仕方を尊重し、本人の楽みの場になるよう提供している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを入れている。また、時折入浴剤を使用し、気持ちの良い入浴をしていただく工夫をしている。	本人の希望やタイミングに出来るだけ合わせた入浴支援をしており、好み入浴剤を使ったり、ゆず湯や菖蒲湯など季節の入浴を楽しめる支援も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、横になり休んでいただいたり、休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従いながら、薬を管理している。薬の名前や効果については、処方箋や薬辞書にて確認ができるようにしている。併設事業所の看護師よりアドバイスをいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に合わせ、横になり休んでいただいたり、休息の時間を作っている。出来ることを把握し、役割を持って生活できるようにしている。気分転換については、外出ドライブ、散歩、行事などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩について、日常的に支援している。地域の文化祭、敬老会、盆踊りに参加したり、お花見、お茶会、ドライブなど楽しみをもった生活支援をしている。	その日の希望にそった散歩や買い物、季節の県内名所地への花見、紅葉狩りなどのドライブ、地域の文化祭、敬老会、盆踊り見学などの支援がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	急に必要なのは、家族へ確認し、施設で代行し購入している。また、買い出し時、一緒に外出し買い物に同行する形を持っている。低額ではあるが、個人でお金を管理している方も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族や友人などに連絡を取りたいと希望があれば、事務所の電話を利用し、自由に連絡ができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう、施設内の飾り物を変えたり、お客様の作品や写真などを展示したりし、親しみやすい環境作りを心掛けている。	空調に配慮されたゆったりした共用空間になっている。観葉植物や熱帯魚、利用者との季節の共同作品や行事写真があり、ベランダや敷地庭園も広く季節の自然を楽しめる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではテーブルの配置を工夫し、賑やかに過ごせる場所や、静かに過ごしていただける場所を配慮し、お客様に居心地良く過ごして貰えるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者に合った居室を配慮し、洋室でもベッドや布団など本人に確認し、希望や状態に合わせて利用していただいている。昔から使用しているなじみの家具など持ってきていただいている。	居室は一人ひとりの状況に配慮した環境を利用者、家族とともに整備し、家族写真、作品を飾ったり、タンス、テレビ、椅子を持ち込み、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などが分かるよう目印を作り、主体的に動くことができるような環境作りを心掛けている。		